

1. 授業のねらい・概要

企業に参加・構成する人々は、それぞれがそれぞれの感情や考え方を持った、生きている人間なのです。そういう人間が集まって形成される企業について研究しようという場合、単にハード的側面ばかりを追うだけでなく、企業の「ソフトな側面」についても充分研究する必要があるのです。

人が集い、集団を形成するところには、必ず「カルチャー」が芽生えてくるものです。どの企業にも、「コーポレートカルチャー」というものは必ず存在しています。人間と同様に、企業にも個性があります。企業の個性ともいえるべきもの、それが「コーポレートカルチャー」なのです。この講義はそんな企業の「ソフトな側面」すなわち「コーポレートカルチャー」にスポットを当て、研究して行こうというものであります。

講義内容の詳細については「授業計画」の項にゆずりますが、前期は主にコーポレートカルチャーの「定義」と「理論の歴史的潮流」について講義を行う予定です。

2. 授業の進め方

テキストは用いず、板書を中心に講義を行う予定です。資料の配布は適宜行います。

3. 授業計画

1. 本講義の概要、授業の進め方、成績評価の説明	10. C Iを推進する立場からのコーポレートカルチャー論
2. コーポレートカルチャーとは何か	11. 経営戦略との適合を主題にするコーポレートカルチャー論
3. コーポレートカルチャーの定義	12. 社員と社会を視野に組み入れたコーポレートカルチャー論
4. コーポレートカルチャーにおける「文化」の定義	13. 企業市民性
5. シンボリック・マネジャー	14. フィランソロピーとメセナ
6. エクセレント・カンパニー	15. 本講義の総まとめ、定期試験の説明
7. マッキンゼーの7つのS	
8. エクセレント・カンパニーの事例	
9. エクセレント・カンパニーの8つの特質	

4. 到達目標

コーポレートカルチャーについて理解を深めた上で、議論が行えることを目標としています。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

講義計画を参考に、次回講義までに参考文献などを読んで予習をしておいて下さい。

6. 成績評価の方法・基準

前期末試験の成績を評価の基本とし、平素の受講態度などを加味した上で総合的に評価します。

7. テキスト・参考文献

〈参考文献〉

- (1) J. P. コッター・J. L. ヘスケット, 梅津祐良訳『企業文化が高業績を生む——競争を勝ち抜く「先見のリーダーシップ」』ダイヤモンド社, 1994年。
- (2) T. E. ディール・A. A. ケネディー, 城山三郎訳『シンボリック・マネジャー』岩波書店, 1997年。
- (3) T. ピーターズ・R. ウォータマン, 大前研一訳『エクセレント・カンパニー』英治出版, 2003年。

8. 受講上の留意事項

本講義の履修に関して特に制限はありませんが、『経営学基礎』の単位が取得済みであることが望まれます。